

青森県経済統計報告

令和 3 年 2 月 2 日

企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（令和 3 年 1 月 1 日現在）…………… 1

県 人 口 1,227,653 人（対前月 1,077 人減少）

自然動態 1,054 人減少（出生者数 513 人、死亡者数 1,567 人）

社会動態 23 人減少（転入者数 1,008 人、転出者数 1,031 人）

2 本県の経済動向（令和 2 年 11 月・12 月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、新型コロナウイルス感染症の影響から厳しい状況が続いているものの、持ち直しの動きがみられる。

なお、直近の景況感（青森県景気ウォッチャー調査・令和 3 年 1 月期）をみると、前期から大きく悪化し、景気の横ばいを示す 50 を 12 期連続で下回った。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 ・令和 2 年 11 月の青森県鉱工業生産指数（平成 27 年=100）は、季節調整済指数が 96.7 で、前月比 6.5%の低下となり、2 カ月連続で前月を下回った。また、原指数は 100.4 で、前年同月比 9.8%の低下となり、4 カ月ぶりで前年同月を下回った。 … 2
- (2-2) 雇用労働 ・令和 2 年 11 月の定期給与は 224,233 円で前年同月比 1.4%増となった。 … 3
・総実労働時間は 149.2 時間で前年同月比 2.9%減、所定外労働時間は 10.3 時間で前年同月比 0.9%減となった。
・令和 2 年 12 月の有効求人倍率（季節調整値）は 1.02 倍で、前月を 0.05 ポイント上回り、8 カ月ぶりに 1 倍を上回った。
- (2-3) 物 価 令和 2 年 12 月の青森市消費者物価指数（平成 27 年=100）は、総合指数が 101.6 となり、前月比 0.3%の下落、前年同月比 1.3%の下落となった。また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は 102.8 となり、前月比 0.1%の下落、前年同月と同水準となった。 … 5
- (2-4) 個人消費 ・令和 2 年 12 月の百貨店・スーパー販売額は、190 億円で全店舗ベースが前年同月比 0.2%減となり、3 カ月ぶりに前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比 0.7%減となり、3 カ月ぶりに前年同月を下回った。 … 6
・令和 2 年 12 月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は 2,545 台で、前年同月比 4.3%増となり、3 カ月連続で前年同月を上回った。
・令和 2 年 12 月の主な観光施設の観光入込客数は、43 万 7 千人で前年同月比 27.2%減となり、10 カ月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施設の宿泊者数は、13 万 1 千人で前年同月比 14.1%減となり、11 カ月連続で前年同月を下回った。
- (2-5) 建 設 ・令和 2 年 12 月の新設住宅着工戸数は 433 戸で、前年同月比 4.8%増となり、3 カ月連続で前年同月を上回った。 … 8
・令和 2 年 12 月の公共工事請負金額は 47 億 9,500 万円で前年同月比 24.0%減となり、2 カ月連続で前年同月を下回った。
- (2-6) 企業倒産 令和 2 年 12 月の企業倒産は、件数は 3 件で前年同月比 50.0%減となった。負債総額は 7 億 2,900 万円で前年同月比 75.1%減となった。 … 8

（3）景気動向指数 C I（令和 2 年 10 月分） ※更新なし …………… 9

先行指数 108.7（前月を 6.6 ポイント上回り、2 カ月連続で上昇した）

一致指数 51.9（前月を 4.2 ポイント上回り、2 カ月連続で上昇した）

遅行指数 110.5（前月を 1.6 ポイント上回り、2 カ月連続で上昇した）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（令和 3 年 1 月期）…………… 10

3 カ月前と比べた景気の現状判断 D I …… 25.5（前期比 24.0 ポイント減、12 期連続で 50 を下回る）

3 カ月後の景気の先行き判断 D I …… 37.1（前期比 11.4 ポイント減、7 期連続で 50 を下回る）

1 青森県の推計人口（令和3年1月1日現在）

【概 況】

令和3年1月1日現在の本県推計人口は、1,227,653人で、前月に比べ1,077人の減少となった。

○自然動態

出生者数が513人、死亡者数が1,567人で、1,054人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,008人、転出者数が1,031人で、23人の減少となった。

総人口の推移

（単位：人）

	総数	男	女	対前月 増減率	増減数	自然 増減数	出生者数	死亡者数	社会 増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
昭 45.10. 1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10. 1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10. 1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10. 1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2.10. 1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10. 1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10. 1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10. 1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10. 1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10. 1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
令2. 1. 1	1,243,282	584,080	659,202	-0.090%	-1,121	-1,018	553	1,571	-103	942	1,045
令2. 2. 1	1,241,902	583,414	658,488	-0.110%	-1,380	-1,230	582	1,812	-150	1,117	1,267
令2. 3. 1	1,240,587	582,838	657,749	-0.106%	-1,315	-973	506	1,479	-342	1,025	1,367
令2. 4. 1	1,234,523	579,730	654,793	-0.489%	-6,064	-976	561	1,537	-5,088	3,634	8,722
令2. 5. 1	1,234,393	579,791	654,602	-0.011%	-130	-856	624	1,480	726	3,211	2,485
令2. 6. 1	1,233,585	579,411	654,174	-0.065%	-808	-819	563	1,382	11	915	904
令2. 7. 1	1,232,681	578,939	653,742	-0.073%	-904	-790	631	1,421	-114	1,027	1,141
令2. 8. 1	1,232,064	578,750	653,314	-0.050%	-617	-729	626	1,355	112	1,506	1,394
令2. 9. 1	1,231,561	578,640	652,921	-0.041%	-503	-794	591	1,385	291	1,478	1,187
令2. 10. 1	1,230,715	578,175	652,540	-0.069%	-846	-862	547	1,409	16	1,292	1,276
令2. 11. 1	1,229,854	577,808	652,046	-0.070%	-861	-939	587	1,526	78	1,258	1,180
令2. 12. 1	1,228,730	577,273	651,457	-0.091%	-1,124	-1,057	536	1,593	-67	926	993
令3. 1. 1	1,227,653	576,763	650,890	-0.088%	-1,077	-1,054	513	1,567	-23	1,008	1,031

1 2月中の人口動態の推移

（単位：人）

年月	H22.12	23.12	24.12	25.12	26.12	27.12	28.12	29.12	30.12	R元.12	R2.12
自然 動態	出生者数	742	732	742	738	680	724	666	674	595	553
	死亡者数	1,317	1,458	1,549	1,494	1,525	1,506	1,485	1,505	1,493	1,571
	自然増減数	-575	-726	-807	-756	-845	-782	-819	-831	-898	-1,018
社会 動態	県外からの 転入者数	1,151	1,035	959	919	965	1,052	920	943	989	942
	県外への 転出者数	1,163	1,091	1,118	1,237	1,152	1,180	1,107	1,078	1,134	1,045
	社会増減数	-12	-56	-159	-318	-187	-128	-187	-135	-145	-103
増減数計		-587	-782	-966	-1,074	-1,032	-910	-1,006	-966	-1,043	-1,121

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成27年11月1日以降の人口は、平成27年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 平成28年10月26日）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

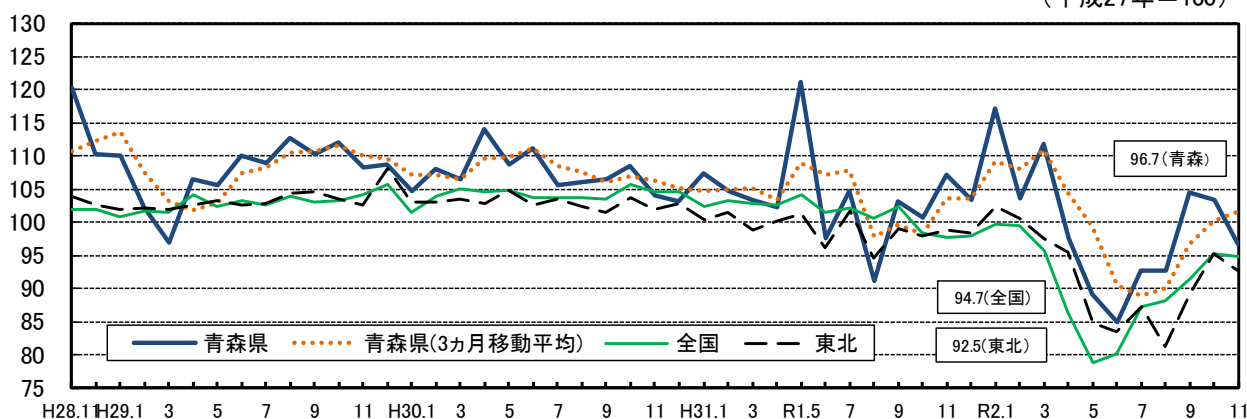
(2-1) 生産動向

令和2年11月の青森県鉱工業生産指数（平成27年＝100）は、季節調整済指数が96.7で、前月比6.5%の低下となり、2か月連続で前月を下回った。また、原指数は100.4で、前年同月比9.8%の低下となり、4か月ぶりで前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、電子部品・デバイス工業、家具工業、印刷業等が上昇に寄与した一方、化学工業、金属製品工業、生産用機械工業等が低下し、鉱工業全体では6.5%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移（季節調整済指数）

（平成27年＝100）

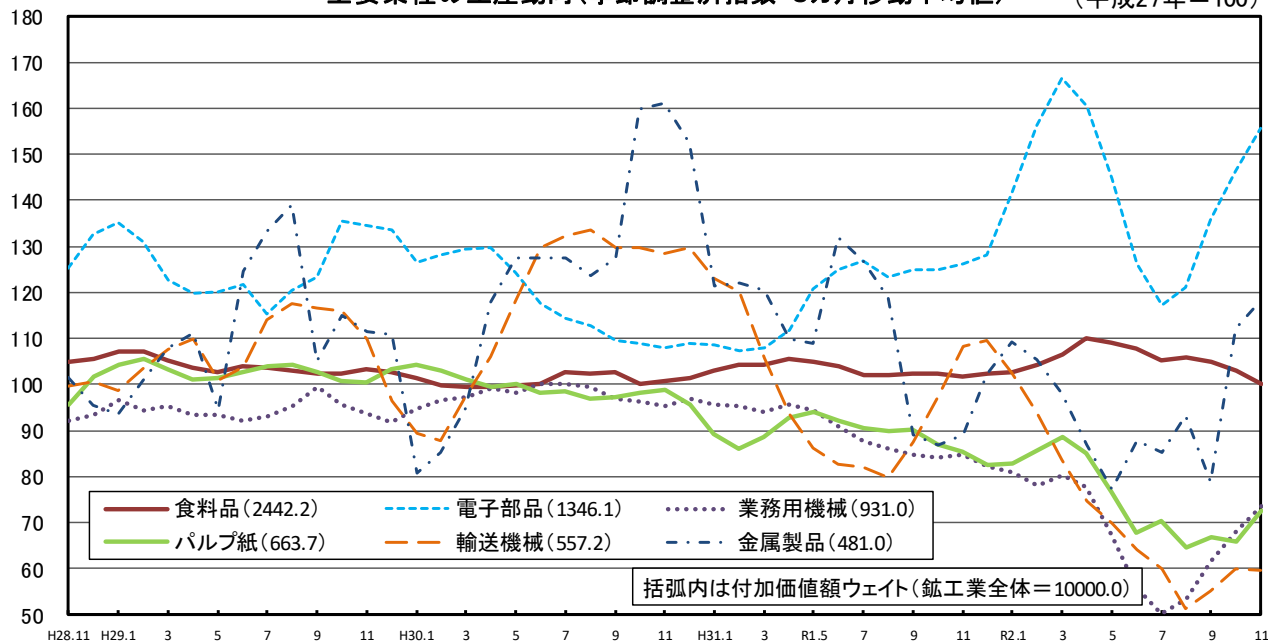


◎業種別動向（前月比） 鉱工業全体 -6.5%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
電子部品・デバイス工業	10.2	12.5	化学工業	-84.2	-70.1
家具工業	19.6	1.0	金属製品工業	-34.0	-15.8
印刷業	6.7	0.9	生産用機械工業	-36.9	-9.4
石油・石炭製品工業	25.3	0.6	輸送機械工業	-26.0	-5.5
鉱業	1.0	0.0	繊維工業	-21.6	-3.5

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)

（平成27年＝100）



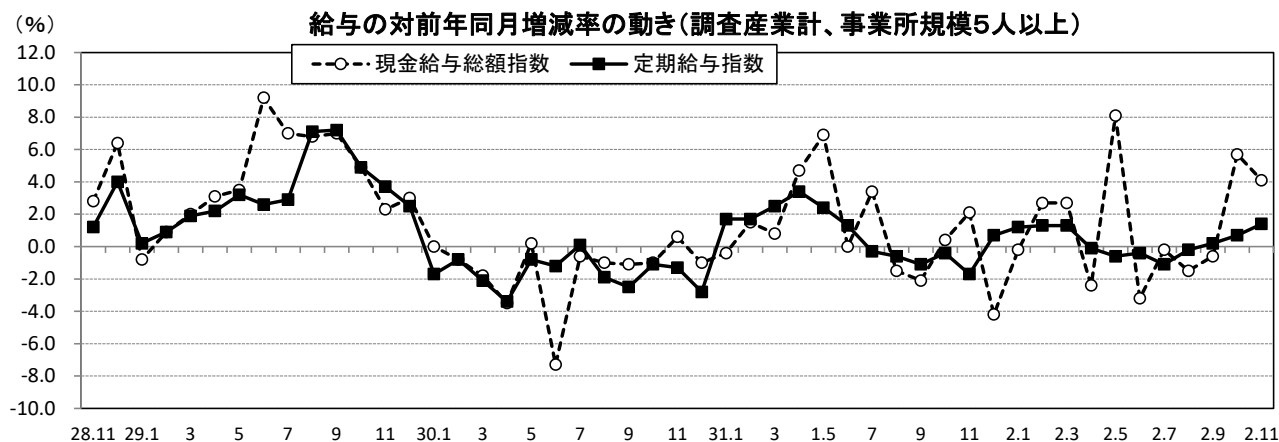
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数（速報）」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

令和2年11月の定期給与は224,233円で、定期給与指数（平成27年＝100）では103.8となり、前年同月比1.4%増と3カ月連続の増（現金給与総額252,651円、現金給与総額指数100.7、前年同月比4.1%増）となった。また、実額で比較した定期給与の全国対比は85.1となった。

総実労働時間は149.2時間で、総実労働時間指数は96.5となり、前年同月比2.9%減と2カ月ぶりの減となった。このうち、所定外労働時間は10.3時間で、所定外労働時間指数は89.6となり、前年同月比0.9%減と8カ月連続の減となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

給与及び労働時間の全国との比較(調査産業計、事業所規模5人以上)

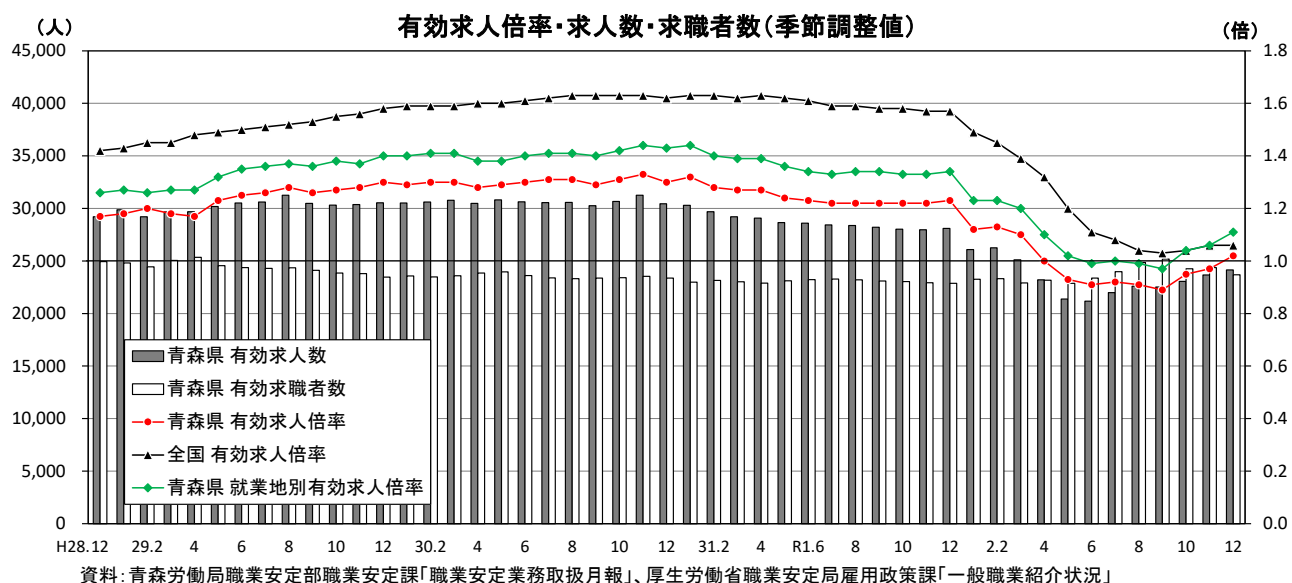
	実 数		指数(H27=100)		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	252,651 円	280,460 円	100.7	88.9	4.1 %	-1.8 %
定 期 給 与	224,233 円	263,349 円	103.8	101.1	1.4 %	-0.9 %
特 別 給 与	28,418 円	17,111 円	—	—	—	-12.8 %
総実労働時間	149.2 時間	138.1 時間	96.5	95.6	-2.9 %	-2.7 %
所定内労働時間	138.9 時間	128.4 時間	97.1	96.2	-3.0 %	-2.1 %
所定外労働時間	10.3 時間	9.7 時間	89.6	88.2	-0.9 %	-10.2 %

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。
5. 全国の数値については、平成30年11月確報から、平成24年以降において東京都の「500人以上規模の事業所」についても再集計した値（再集計値）に変更しており、従来の公表値とは接続しないことにご注意ください。また令和元年6月分速報から「500人以上規模の事業所」について全数調査による値に変更していることにご注意ください。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

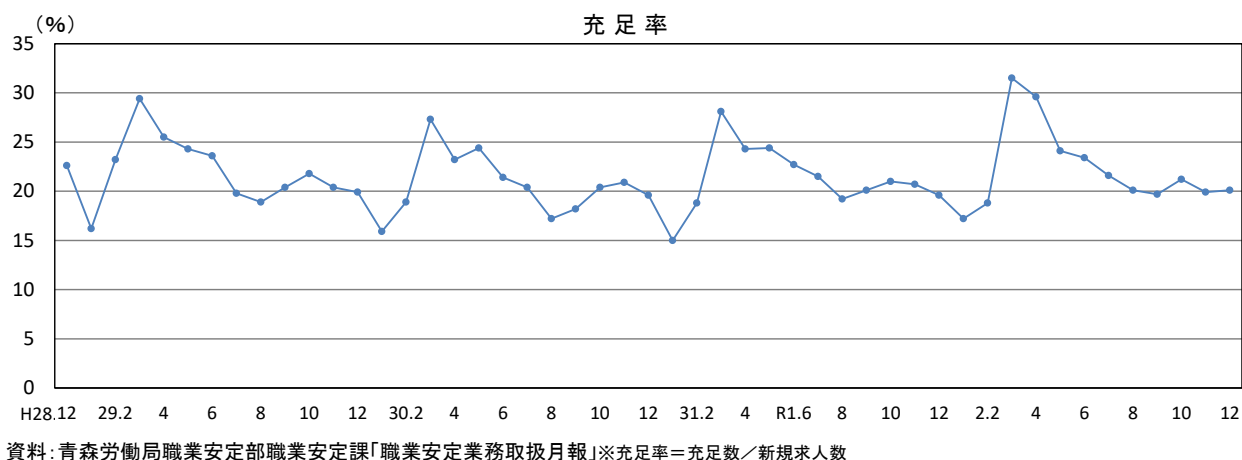
(2-2-2) 有効求人倍率

令和2年12月の有効求人倍率(季節調整値)は1.02倍で、前月を0.05ポイント上回り、8カ月ぶりに1倍を上回った。就業地別有効求人倍率は1.11倍で、前月を0.05ポイント上回った。



(参考) 充足率(新規学卒者を除きパートタイムを含む)

令和2年12月の充足率は20.1%で、前年同月を0.5ポイント上回った。



(2-3) 物価

令和2年12月の青森市消費者物価指数(平成27年=100)は、総合指数が101.6となり、前月と比べ0.3%の下落、前年同月と比べ1.3%の下落となった。

生鮮食品を除く総合指数は101.9となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と比べ1.2%の下落となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は102.8となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と同水準となった。

総合指数が前月と比べ0.3%の下落となった内訳を寄与度でみると、食料、被服及び履物などの下落が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ1.3%の下落となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、交通・通信などの下落が要因となっている。

図1 総合指数の動き

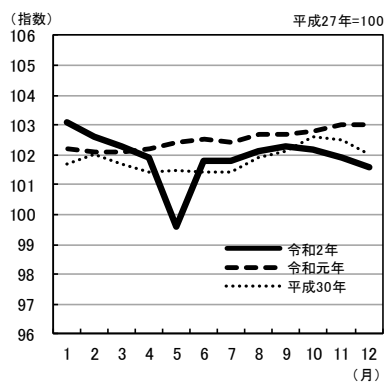


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

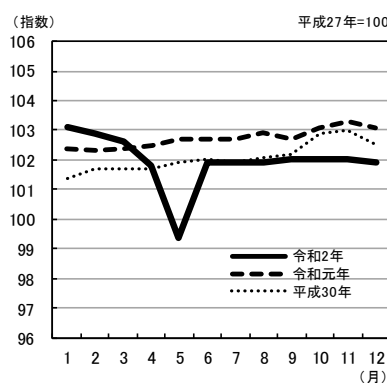
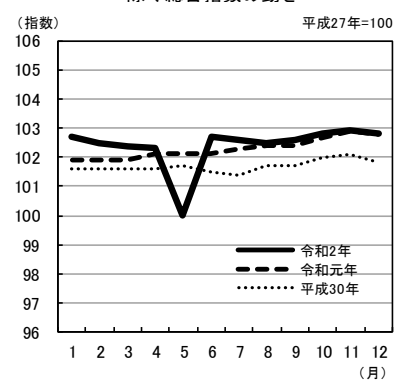


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成27年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	娯楽	養老	諸雑費
当月指数	101.6	101.9	102.8	101.1	105.8	95.3	101.5	96.8	106.1	104.8	101.8	97.3	95.2	101.4		99.0
前月比(%)	▲0.3	▲0.1	▲0.1	▲0.2	▲0.7	▲4.6	0.0	▲0.2	▲0.7	▲1.6	▲0.3	0.2	0.0	▲0.1		0.1
寄与度	—	▲0.08	▲0.08	▲0.11	▲0.19	▲0.22	▲0.01	▲0.02	▲0.03	▲0.05	▲0.01	0.03	0.00	▲0.01		0.00
前年同月比(%)	▲1.3	▲1.2	0.0	▲0.2	▲0.1	▲4.7	0.2	▲7.1	1.4	▲2.4	▲0.9	▲2.2	▲3.2	▲2.7		1.2
寄与度	—	▲1.13	0.01	▲0.15	▲0.03	▲0.22	0.04	▲0.80	0.06	▲0.08	▲0.04	▲0.28	▲0.08	▲0.21		0.07

資料: 県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

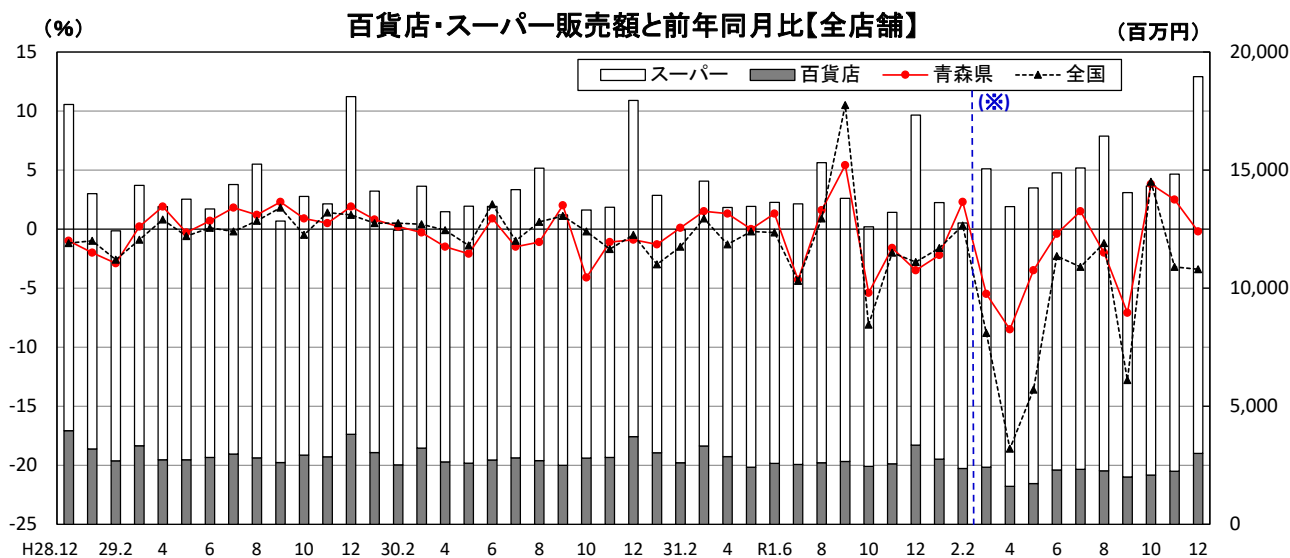
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

(2-4) 個人消費

(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

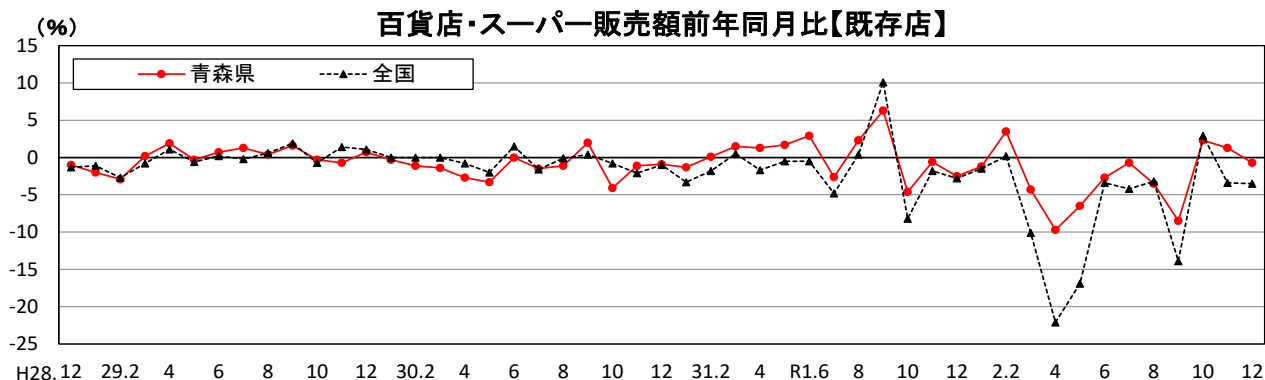
令和2年12月の百貨店・スーパー販売額は、190億円で全店舗ベースが前年同月比0.2%減となり、3カ月ぶりに前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比0.7%減となり、3カ月ぶりに前年同月を下回った。



資料:経済産業省「商業動態統計速報」

※前年同月比は、調査対象事業所の見直しが行われた場合、この見直しによるギャップを調整するリンク係数で処理した数値で計算されている。

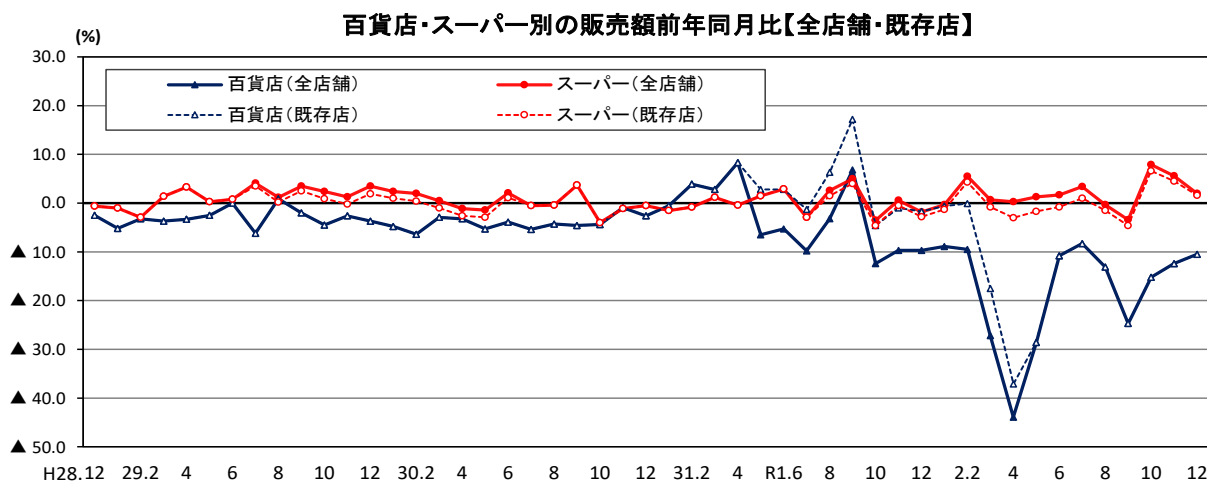
R2.3月からはH28年経済センサス-活動調査に基づいた対象事業所の見直しがなされ、スーパー及び百貨店・スーパー合計額の前年同月比について、そのギャップを調整するリンク係数で処理された数値となっている。



資料:経済産業省「商業動態統計速報」

※百貨店は、従業員50人以上の小売事業所のうち、次のスーパーに該当しない事業所であって、かつ、売場面積が1,500平方メートル以上の事業所をいう。スーパーは、売場面積の50%以上についてセルフサービス方式を採用している事業所であって、かつ、売場面積が1,500平方メートル以上の事業所をいう。ただし、商業動態統計調査の家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンターの調査対象企業の傘下事業所で、調査対象となっている事業所を除く。

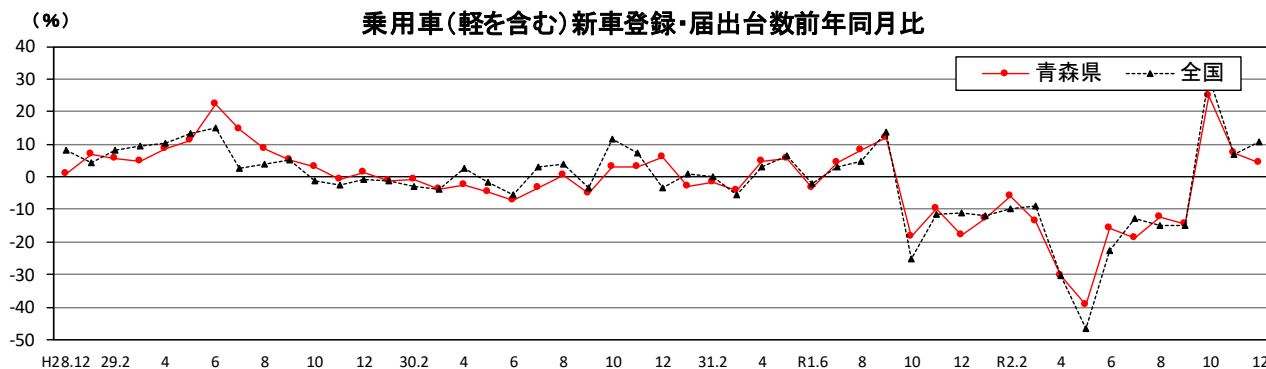
そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている事業所をいう。



資料:経済産業省「商業動態統計速報」

(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

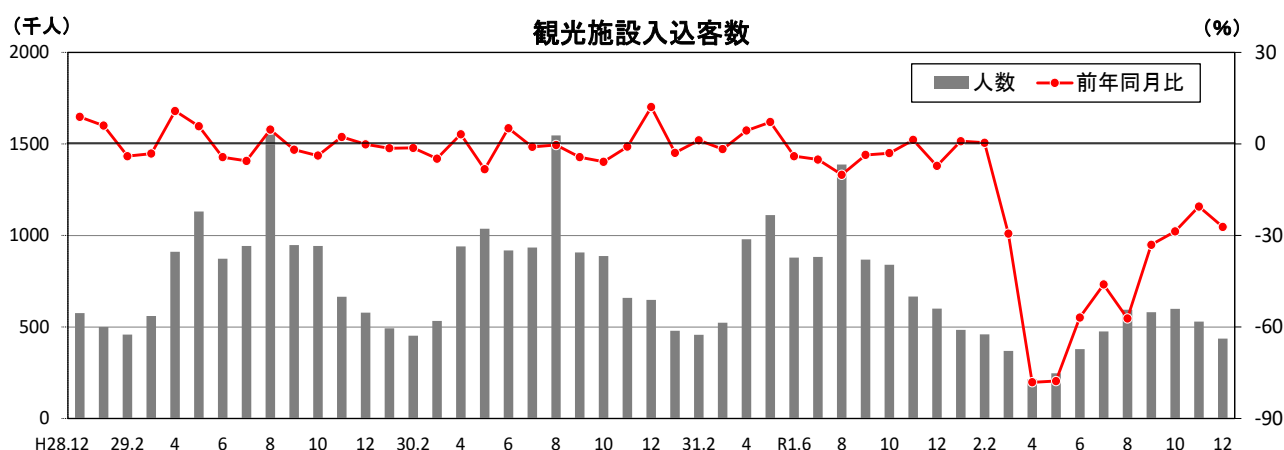
令和2年12月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は2,545台で、前年同月比4.3%増となり、3カ月連続で前年同月を上回った。普通車、軽乗用車が増加したことによる。



資料: 日本自動車販売協会連合会青森県支部「自動車登録状況 新車月報」、同連合会「自動車統計データ」

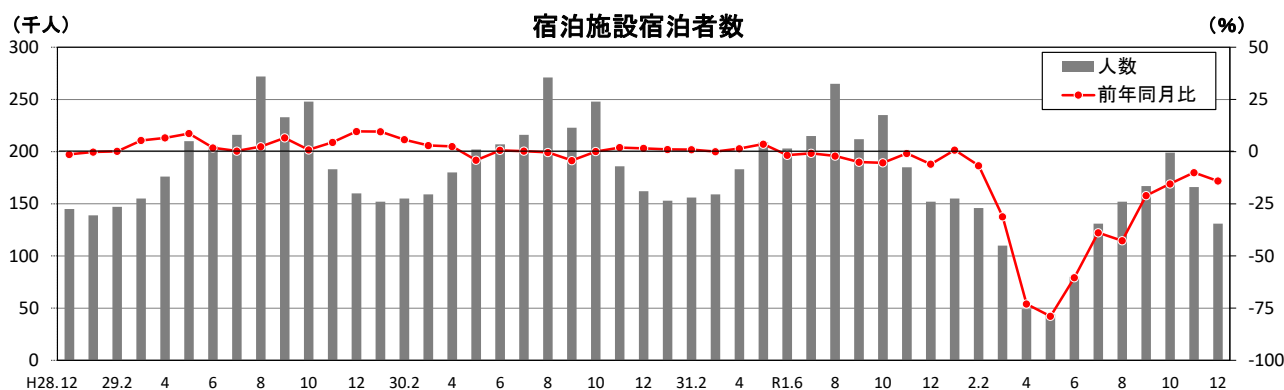
(2-4-3) 観光入込客数・宿泊者数

令和2年12月の主な観光施設の観光入込客数は、43万7千人で前年同月比27.2%減となり、10カ月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施設の宿泊者数は、13万1千人で前年同月比14.1%減となり、11カ月連続で前年同月を下回った。観光施設、宿泊施設ともに前年同月を下回り続けているが、青森市やむつ市では前年を上回る観光施設もあったほか、西北地域の宿泊者数は前年を上回った。



資料: 県観光企画課「月例観光統計」

※観光施設35施設(H24年1月～H26年3月は35施設、H26年4月～H28年12月は34施設、H29年1月以降は35施設対比)



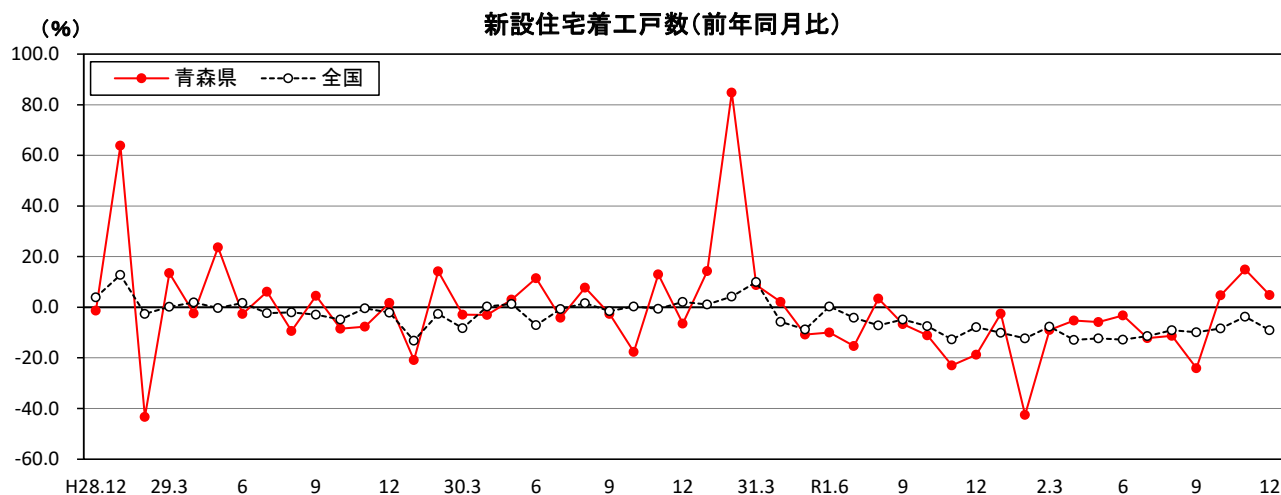
資料: 県観光企画課「月例観光統計」

※宿泊施設 全県76施設(H30年6月まで79施設、H30年7月は78施設、H30年8月～R1年5月は79施設、R1年6月～7月は80施設、R1年9月～R2年3月は78施設、R2年4月～5月は77施設、R2年6月～10月は以降は76施設、R2年11月からは75施設対比)

(2-5) 建設

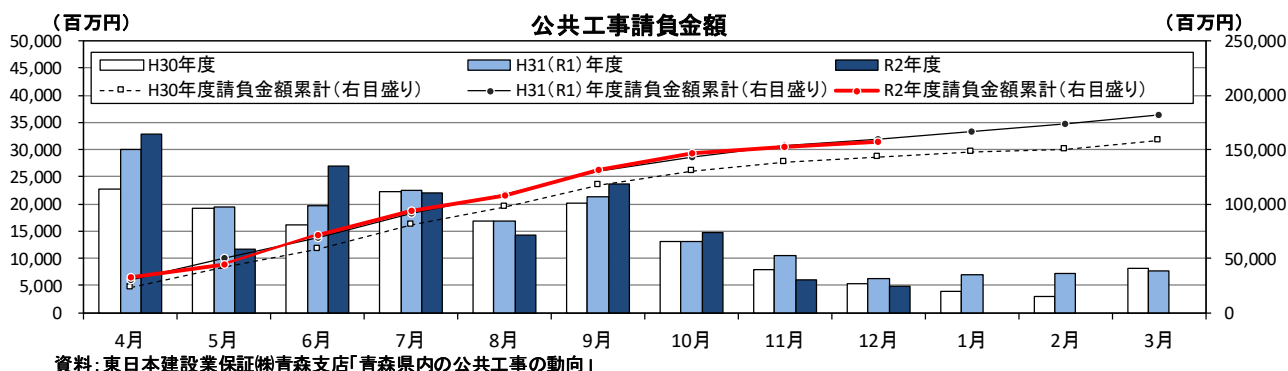
(2-5-1) 住宅建設

令和2年12月の新設住宅着工戸数は433戸で、前年同月比4.8%増となり、3カ月連続で前年同月を上回った。貸家が増加したことによる。



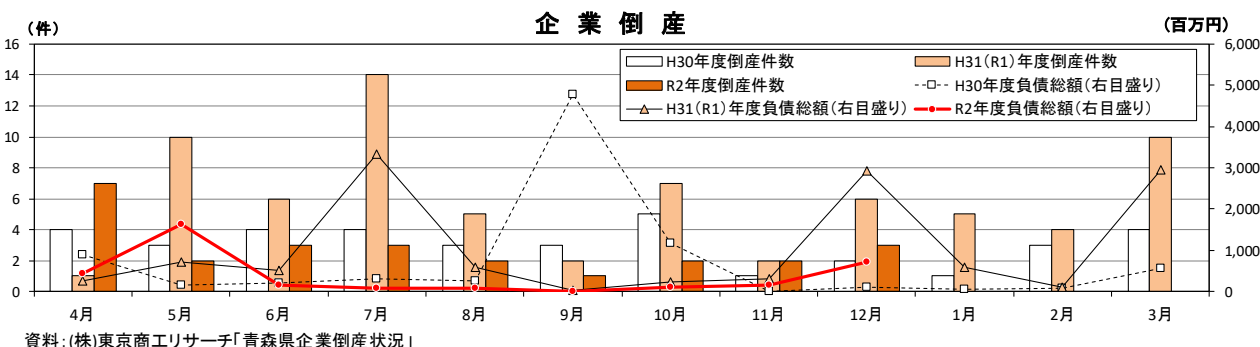
(2-5-2) 公共事業

令和2年12月の公共工事請負金額は47億9,500万円の前年同月比24.0%減となり、県や市町村の減少により2カ月連続で前年同月を下回った。また、令和2年12月までの累計金額は1,568億2,900万円の前年同期比1.8%減となった。



(2-6) 企業倒産

令和2年12月の企業倒産は、件数は3件で前年同月比50.0%減となった。負債総額は7億2,900万円の前年同月比75.1%減となった。また、令和2年12月までの累計倒産件数は25件で前年同期比52.8%減、負債総額は34億700万円の前年同期比61.8%減となった。



(3) 青森県景気動向指数 ※更新なし

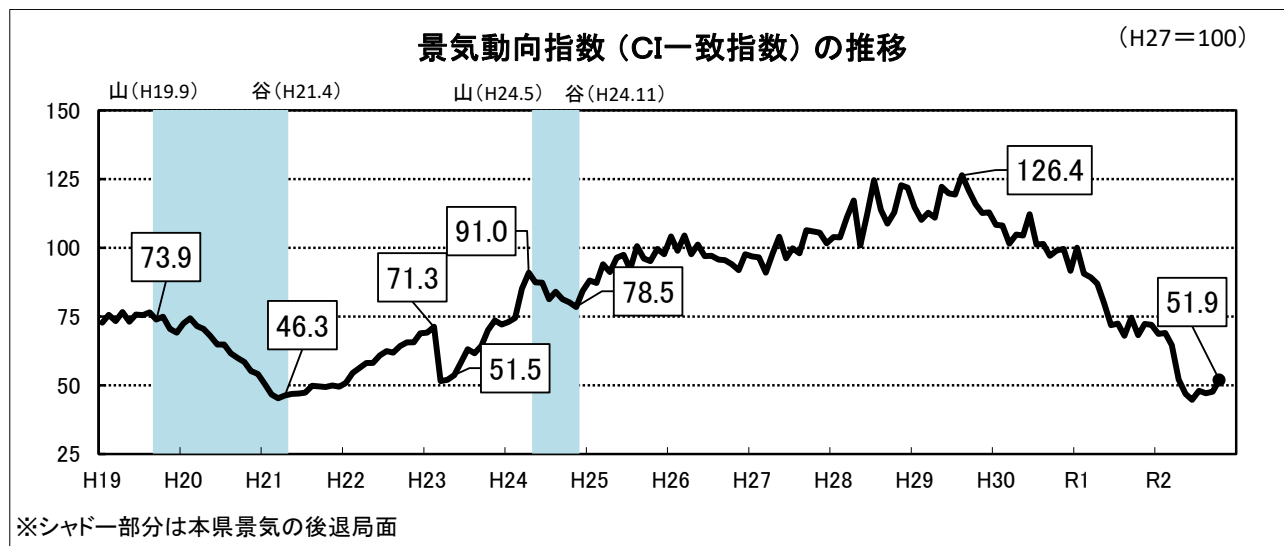
令和2年10月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数108.7、一致指数51.9、遅行指数110.5となった。

先行指数は、前月を6.6ポイント上回り、2カ月連続で上昇した。

一致指数は、前月を4.2ポイント上回り、2カ月連続で上昇した。

遅行指数は、前月を1.6ポイント上回り、2カ月連続で上昇した。

10月の一致指数は、生産関連の指標以外が全てプラスになったことから上昇した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

●個別米価の動き（各指標は季節調整を行ない、前年度と前月と比較してまいります）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
乗用車新車登録届出台数	5.32	2カ月ぶり	新設住宅着工床面積	-1.33	2カ月ぶり
生産財生産指数	1.63	5カ月連続	企業倒産件数（逆サイクル）	-1.02	2カ月ぶり
中小企業景況D I	1.61	3カ月ぶり			
建築着工床面積	0.54	4カ月ぶり			
新規求人倍率（全数）	0.16	4カ月連続			
日経商品指数（42種）	0.06	2カ月ぶり			
一致系列					
有効求人倍率（全数）	2.50	3カ月ぶり	投資財生産指数	-0.91	4カ月ぶり
百貨店・スーパー販売額（既存店）	1.97	3カ月ぶり	鉱工業生産指数	-0.16	2カ月ぶり
旅行取扱高	0.49	5カ月連続			
輸入通関実績（八戸港）	0.19	2カ月ぶり			
所定外労働時間指数（全産業）	0.13	2カ月連続			
遅行系列					
家計消費支出（勤労者世帯：実質）	1.62	3カ月連続	りんご消費地市場価格	-2.47	2カ月ぶり
有効求職者数（全数）（逆サイクル）	1.45	3カ月ぶり	青森市消費者物価指数（総合）	-0.60	2カ月ぶり
常用雇用指数（全産業）	1.16	2カ月ぶり			
県内金融機関貸出残高	0.75	2カ月ぶり			
公共工事請負金額	0.05	2カ月連続			

（参考）青森県景気動向指数（D I）

先行指数 87.5% （3カ月連続で50%を上回った）

一致指数 85.7% （2カ月連続で50%を上回った）

遅行指数 71.4% （2カ月連続で50%を上回った）

(4) 青森県景気ウォッチャー調査 (令和3年1月期)

現状判断DIは、新型コロナウイルス感染症のクラスターの発生や、Go To トラベル事業の停止、年末年始の忘新年会自粛による収入の減、大雪の影響などを受け、前期比24.0ポイントの大幅な減少となる25.5となった。

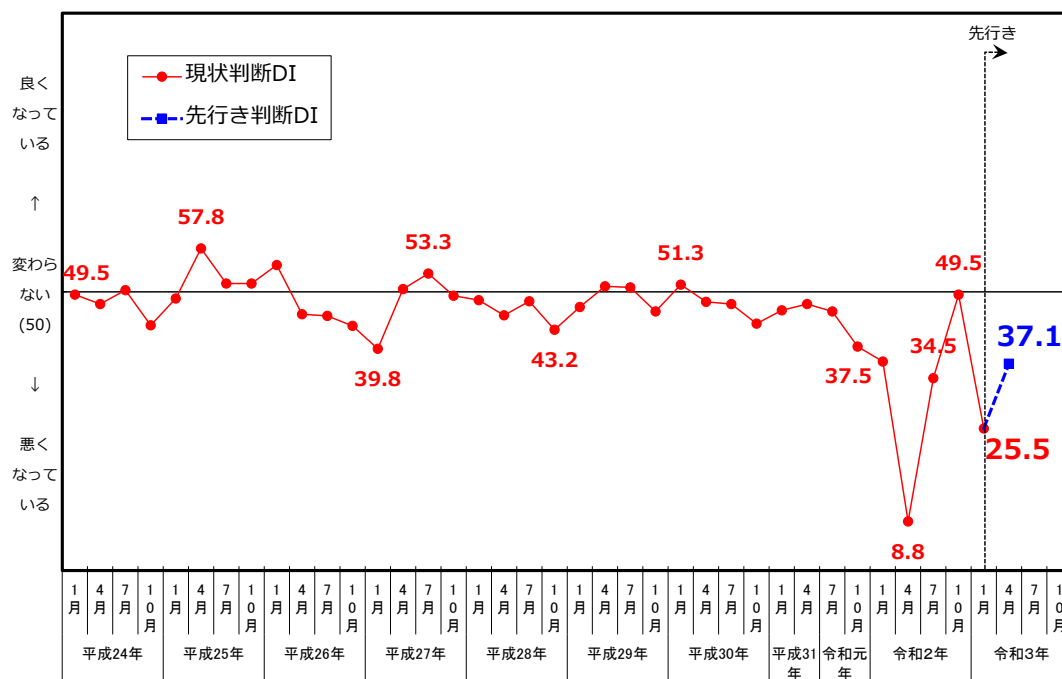
先行き判断DIは、首都圏に発出された緊急事態宣言による影響への懸念や、感染拡大の第3波への警戒感などから、前期比11.4ポイント減少の37.1となったが、一方で、ワクチン接種開始による景気回復に期待を寄せる声もあった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を12期連続で下回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を7期連続で下回った。

(調査期間 令和3年1月4日～1月20日 回答率 99%)

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



● 3カ月前と比べた景気現状判断

動

前期調査と比べると、「良くなっている」が4.1ポイントの減少で0となり、「やや良くなっている」が30.6ポイントの減少、「変わらない」が2.8ポイントの増加、「やや悪くなっている」が6.8ポイントの増加、「悪くなっている」が25.2ポイントの増加となり、全体では24.0ポイントの大幅な減少となった。

向

判断理由では、これまで少しずつ持ち直してきた消費活動が、新型コロナウイルス感染症のクラスターの発生やGo To トラベル事業の停止などにより再び低迷したとの声が多かった。また、年末年始の忘新年会自粛による収入の大幅減や、大雪による来客数の減少を挙げる声もあった。一方で、クラスター発生の影響が落ち着いてからはやや持ち直したとの声もあった。

地区別では、前期調査と比べて、全地区でポイントが減少し、景気の横ばいを示す50を下回った。特に東青地区では30.8ポイント減と、50を上回った前期調査と比べて大幅な減少となった。

● 3カ月後の景気の先行き判断

動

前期調査と比べると、「良くなる」が2.0ポイントの増加、「やや良くなる」が17.5ポイントの減少、「変わらない」が0.3ポイントの減少、「やや悪くなる」が0.3ポイントの減少、「悪くなる」が16.1ポイントの増加となり、全体では11.4ポイントの減少となった。

向

判断理由では、首都圏に発出された緊急事態宣言による影響への懸念を挙げる声や、感染拡大の第3波の影響に対する警戒感などを挙げる声があった。一方で、新型コロナウイルス感染症のワクチンの接種開始に期待を寄せる声もあり、接種が開始されれば人々の意識が上向き景気が徐々に回復し始めるのではとの声があった。

地区別では、前期調査と比べて、全地区でポイントが減少し、景気の横ばいを示す50を下回った。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

○3カ月前と比べた景気の現状判断理由

○	弘前市でコロナによる飲食店クラスターが発生して低迷したが、その後にGoToキャンペーンで持ち直したうえ、出来秋や年末年始の需要・消費増が大きい。(新聞社求人広告=津軽)
□	上向いてきたか、と思えば感染症の拡大で再び落ち込むという流れの繰り返しなので。(百貨店=東青)
□	GoToが始まって、さあこれからと言うときに県内各地でのクラスター発生によって消費者の行動は再び殻に閉じこもったようです。(経営コンサルタント=県南)
□	コロナウイルス感染不安からのヒト、モノの流れ停滞が依然として続いている。ヒトが動けば感染が拡大する状況に陥っていると思う。(新聞社求人広告=東青)
△	新型コロナウイルス、冬の平均賞与減少により、外出自粛に加え、節約の意識が高まり、必要なものしか買わない傾向が見られます。(スーパー=東青)
△	建築は消極的に感じる。コロナ禍の様子をうかがっている気配があり、検討はするが、時期の決断が出来ないでいる。(住宅建設販売=津軽)
△	職种的に今は繁忙期にあたりますが、例年と比べると厳しい状況です。コロナウイルス感染拡大が騒がれている間は、厳しい状況が続くと思います。(パチンコ=県南)
△	新型コロナ感染者の増加により、GoToトラベルの一時停止や、GoTo商店街のイベント自粛等で人の動きが減っている。その一方、厳しい寒さと積雪により、生活必需品の動きは多少ある。(商店街=県南)
△	緊急事態宣言発令に伴う観光産業を中心とした経済活動の停滞。(広告・デザイン=東青)
×	GoToトラベルで11月期は持ち直すも新型コロナウイルス再拡大と大雪のダブルパンチで急降下。(一般小売店=東青)
×	10月の弘前でコロナクラスター以降、大半の仕事がキャンセルとなった。(都市型ホテル=津軽)
×	不要不急の外出や忘新年会などを自粛要請しているため街は人も車も少ない。(商店街=津軽)
×	寒波による道路事情の悪さと首都圏のコロナ感染拡大による帰省自粛により集客がかなり悪くなっている。(百貨店=県南)
×	第3波のコロナ禍の影響により、例年でも宿泊客が減少する客場に益々拍車がかかっている。又、飲食を伴う宴会はほぼ皆無に等しく、忘・新年会は少人数で数件でした。(都市型ホテル=下北)
×	昨年後半から、コロナ拡大の影響を受け、予定していた広告、イベントが中止になり、再開のめどが立っていない。(広告・デザイン=県南)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

○3カ月後の景気の先行き判断理由

◎	2月末らしいが、コロナワクチンの接種開始で市民の日常生活が徐々にでも落ち着きを取り戻すだろうし、雪解け後の観光シーズンに期待を込めて。(新聞社求人広告=津軽)
○	コロナのワクチン接種効果による不安解消効果を期待している。(乗用車販売=津軽)
○	コロナの影響で延期となったり一旦中止となった物件がまた動き始める様子があります。(設計事務所=津軽)
□	コロナ禍の終了までは厳しい。(ガソリンスタンド=津軽)
□	コロナ禍での萎縮した生活の日常化の先行きの見通しが立たない為。(衣料専門店=県南)
□	新型コロナに対するワクチンが安定的に供給されるまでは変わらないと思う。(レストラン=下北)
□	ワクチン接種開始により、消費活動や人の往来が向上すると想定されるが、まだまだ新型コロナ罹患者の増減が読めないのでもと云えない。(広告・デザイン=東青)
□	コロナウイルス感染状況によるが、このままの状況が続けば昨年同様歓迎会需要はまったくもって期待できない。気持ち的にも一進一退で、消費意欲も減退するのでは？(飲料品製造=県南)
□	感染拡大が抑えられない限り景気が元に戻ることは無いと思う。(人材派遣=津軽)
△	新型コロナウイルス感染問題に関係なく冬シーズンは景気がやや悪くなる。(商店街=津軽)
△	コロナ第3波が下降に転じない限り、状況は悪化の一途。(スーパー=県南)
△	首都圏で発令された緊急事態宣言により人の往来もビジネス取引も低調になる。本来会って打合せすべき内容もweb会議となっており、進捗も遅れがちである。(電気機械製造=県南)
△	感染拡大により、サービス・製造業の早期退職検討が増えているため企業からの人材募集も低迷している。(人材派遣=東青)
×	現段階では周囲を見ても不安な要素しか見当たらず、何をするにも臆病になってしまう状態では景気が今よりも良くなるという可能性は限りなく低いと思います。(タクシー=東青)
×	安心して利用できるコロナワクチン治療薬の開発のめどがたっていない。(卸売業=県南)
×	コロナ第3波の影響。(食料品製造=下北)

記号の意味：◎良くなる、○やや良くなる、□変わらない、△やや悪くなる、×悪くなる

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」